

教育目標

(1) 本校の教育目標

校風と伝統を継承し、校訓「最後までやり抜く」を基盤に、知・徳・体の調和のとれた活力ある児童の育成を目指す。

- － 考える子 － 個性を生かし、自ら学ぶ子
- － やさしい子 － 思いやりの心もち、互いに磨き合う子
- － 強い子 － 命を尊び、心と体を鍛える子

(2) 経営方針

学校は、授業や行事等の教育活動を通して、子供の生きる力を育むところであるという理念の下、教育活動の工夫、教育環境の充実を図り、一人一人の自己確立及び人間形成を促す。

(3) 教育活動の重点

＜自ら学ぶ力を育むために＞

○基礎学力の定着

- ・学習内容を精選、明確化することで、確実な指導を実現する。
- ・一人一人の「考え・学ぶ機会」を充実させるために、指導の効率化を図る。
- ・自らの学びを振り返ることで、学習内容の定着を図る。

○学びの意識化

- ・一人一人に目的を明確に把握させ、学習の見通しをもたせる。
- ・既習内容の活用（応用・思考）を図り、学ぶことの価値を意識させる。
- ・自分自身の向上に目を向けた振り返りにより、学びの実感をもたせる。
- ・学びの過程を振り返り、自分の学び方を価値づけさせる。
- ・子供の学ぶ意思を尊重し、学習への責任をもたせる。

＜自他を尊ぶ心を育むために＞

○他者意識の涵養

- ・他者の意見に耳を傾け、多様な見方・考え方を認め合う価値を感じさせる。（授業、学級活動等）
- ・自分の思いや考えを伝え、相互理解を深めようとする態度を育てる。（授業、学級活動等）
- ・目的を同じくする仲間が存在意義を認識させる。（学級活動、部活動、学校行事）
- ・互いに尊重し合うことの大切さを意識させ、規範意識を高める。（学校生活）

○自己肯定感の高揚

- ・集団の中の自分の役割を明確にし、自己有用感を高める。
- ・目的をとらえ、自らの活動を考えることで当事者意識を持たせる。

○社会に対する意識の育成

- ・規範意識を高め、安心できる集団を築こうとする態度を養う。（学級活動）
- ・地域社会とのつながりを意識させ、社会の一員であることを自覚させる。（社会体験学習、挨拶運動、ボランティア活動等）
- ・社会の多様性に触れ、互いに認め合う心を育む。（社会体験学習、外部講師招聘等）

＜健やかな心と体を育むために＞

- ・仲間とともに取り組む経験を通して、共働の価値を認識させる。（学校行事、部活動）
- ・心身の状況に関心を持ち、自己管理意識を高める。（健康診断、保健指導、健康教育）

- ・体力、精神力の向上に努め、健康的な生活を送る態度を養う。(体育的行事、部活動)
- ・「自分の身は自分で守る」意識を高め、術を習得する。(避難訓練、安全教育)
- ・感動体験を通して豊かな心の醸成を図る。(道徳教育、読書活動、芸術鑑賞、講演会)

<教育機能を十分に生かすために>

- ・PDCAによる評価に基づき、教育活動運営の最適化を図る。
- ・手段の目的化を排除し、教育活動の目的に合った実施方法を改善、工夫する。
- ・課題への組織対応を基本とし、教師個人の負担軽減とスキルアップを目指す。
- ・コミュニケーションを活発にし、互いの業務に関心をもち、効率化・平準化に向けた合意形成を図る。